

西国巡礼慈悲の道

西国第一番 那智山 青岸渡寺

西国巡礼のすすめ

住職 高木亮亨

本日は西国第一番札所・那智山青岸渡寺によくお参りくださいました。

那智山の歴史は仁徳帝の頃、天竺僧・裸形上人が仏教を流布するため渡来し、熊野一帯を巡り那智大滝をみつげ苦修練行の暁、八寸の観音菩薩を感得し草庵を結びお祀りしたのが開山になります。

その後二百年ほどたち、推古天皇のとき奈良の生佛上人が来山して、裸形上人

の話を聞いて一丈の如意輪

観音を椿の霊木で刻み、八

寸の観音を胎内佛に納め、

勅願を仰ぎ、はじめてお堂

が建立されたのであります。

長い歴史の中で役小角、

弘法大師、智証大師等が参

籠するなど、また、修験道

の道場として信仰が高まり、

「蟻の熊野詣」といわれる

ほど多数の人たちで賑わい、

熊野三山の本地佛、本宮は

阿弥陀、新宮は薬師、那智

は観音に現当二世の願いを

かけられたのであります。

そうした中でも一千年前、

正暦年間、第六十五代花山

法皇が三年間那智大滝の上

に円成寺という庵を結び修

行し、満願お礼として佛眼

上人を導師に性空上人、弁

光僧正に案内され、近畿一

円三十三観音霊場を巡礼参

拝復興されたのであります。

このことを世の人たちが聞

かれ、観音霊場を巡拝する

信仰が全国に広がり、観音

さまが三十三身に化身され

衆生済変する数に因んで、

那智山から谷汲山まで千三

百キロ、早い方で一月半、

普通春彼岸から秋彼岸頃ま

で半年ほどかけて巡礼され

るようになったのでありま

しょう。廣大無辺の大慈大

悲のお力を与えられ、三毒

の煩惱から離れ、一日一日

を一心に感謝・合掌のでき

る生き生きと不安のない生

活を送るために、巡礼が素

晴らしいと老若男女を問わ

ず多くの人からいわれ、自

分の心身の「行」として、

また、浄化反省する機会に

なつたと存じます。



西国三十三所札所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

この「西国巡礼慈悲の道」は、納経の際に1枚ずつ受け取って頂き、表紙をつけると1冊の法話集になります。

観音風光

那智山の納経印の上に「普照殿」と書いています。「法華経」の第二十五番目に「観音経」に出て来る「普明照世間」から取って、普く明るく世間を照らすという意味で、人の為、世の為に善いことをするという約束を本尊様に誓ったのであります。

是非観音様のみ子としてどうか御精進下さることを念じています。 合掌



主な年中行事

- 一月一日、七日 修正会
- 二月節分 豆まき大法会
(本尊開扉)
- 三月彼岸一週間 大法会
- 四月 開山祭献茶法要
(本尊開扉)
- 八月十七日 お盆精霊追善大法要
(本尊開扉)
- 九月彼岸一週間 大法会
- 十一月 大黒天七福神大法会

〒649-5301 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山8
 TEL 0735-55-0001 / FAX 0735-55-0757
 納経時間 午前5時～午後4時30分

仏教用語一口解説

如来とは

仏様の種類に「如来」と呼ぶ仏があります。『釈迦如来』『阿弥陀如来』『薬師如来』『大日如来』などがそうです。「如来」とは、真理に到達したもの、悟りを開いたものという意味。如来は、仏教世界の中心をそれぞれ司る仏で、大変に偉い仏様なのです。会社でいえば社長さんや重役さんにあたるのでしょうか。この仏様たちは仏法を守るというお役目が大変に忙しいとされ、その補佐をして直接に私たち衆生を助ける役目として菩薩を脇持として従えているのだとされています。

西国三十三所札所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

西国霊場にご参拝の時は納経帳や白衣を忘れずにご持参ください。2回目以降はご参拝の印として重ねて納経印をいただきますよう。

西国第一番

那智山

せいがん
とじ
青岸渡寺

天台宗

御本尊／如意輪観世音菩薩 開基／裸形上人

補陀洛や

きし

岸うつ波は

みくまの
三熊野の

なち
おやま
那智の御山に

たきつせ
ひびく滝津瀬

